

ウ、教授過程

学習活動・内容	時間	協力分担		指導上の留意点	反応・評価
		T1	T2		
1. 本時のあし、腕、胴体、とぶ運動について話し合う。	5	○OHPの見える位置に半円形に整列させる。 ○健康状態や服装を見る。 ○各人の理解を援助する。	○OHPにより、学習のわらい、方法を理解させる。 ・体操、腕立てとび越し。	○運動動作を極限に近づけさせる。 ○各自の程度(能力)にあった「めあて」をもたせる。	緊張感 84/86
2. いろいろな腕立てとび越しを見ながら本時の開脚の腕立てとび越しについて話し合う。		体操や腕立てとび越しで、気づいたこと、さらに知りたいことは、ありませんか。			反応 75/86
3. 体操をする。 (1) 部分的体操をする。 ○腕の拳振 回旋 脚の屈伸体の前後屈。 (2) 全身の体操をする。 ○台上下りおよび、開閉脚とび・うさぎとび・向き変えとび。	10	○体操をさせる。 ・タンプリングのリズムにより、強弱をつけた部分的運動。 ・ローテーション方式での全身の運動。 台上下りおよび。開閉とび。	○運動のできる距離、間隔に散開させる。 ○個別に援助する。 ○ローテーション方式での内容を分担する。 うさぎとび、向き変えとび(180°回転)	○台上下りおよびおりでは、腕の支持とスナップに注意させる。 ○向き変えとびは、高さや幅をかえるようにさせる。 ○うさぎとびは一回ごとに正確にさせる。	反応 75/86
4. 腕立てとび越しをする。 (1) 2人組み馬とび遊びとする。 (2) いろいろな腕立てとび越しをする。 (3) 開脚の腕立てとび越しをする。 ○グループ別練習。 (4) グループの話し合い。	20	○2人組み馬とび遊びをさせる。 ○開閉脚とびをさせる。 ・A・B・Cの組み分けをする。 ○B・Cグループを分担し、OHP、写真により手のつく位置や突き放しを説明する。 ○各自に努力点をもたせる。 ・手のつきの位置、遠い着地。 ○グループ別に個別援助する。	○分担当指導をする。 ○組み分けを援助する。 ○Aグループを分担し、OHP、図解で、よい馬のりを理解させる。 ○各自に努力点をもたせる。 ・踏み切り ・手つきのタイミング ・手の突き放し ・上体おこし ○個別に援助する。	○とび越しを3~4回させて、グループ分けをする。 ○運動を停止させないで、児童の自己評価と教師の助言により、所属グループを選ばせる。 ○グループ分けの基準。 A-馬のりはできる。 B-もうすこしでとび越せる。 C-とび越せる。 ○友だちの演技をよくみさせる。	反応 A-22人 B-33人 C-25人 反応 A 20/25 BC 53/61
5. 整理運動をする。 (1) 行進しながら整列をする。 (2) あし、腕の運動をする。	5	○集合場所を指示し、8列縦隊に整列させる。 ○整理運動をさせる。	○レコードをかける。 ○運動量について観察する。		到達度 A 16/28
6. 次時の予告をきく。	5	○次時学習について知らせる。	○反応記録、指導メモの整理をする。		B 26/33
7. あとしまつをする。		○あとかたづけについて話す。	○あとかたづけを援助する。		C 22/25

③ 検証と考察

ア、評価基準

集団の程度	めあて
A 腕立て馬乗りできる	1. 両足をそろえて高く踏みきることができる 2. 腰を高くあげて馬乗りになることができる 3. 足を前に大きくふることができる 4. 馬乗りから両腕で体を持ち上げ前に移ることができる 5. 両腕でとび箱をつきはなしておることができる

B もう少しで、開脚の腕立てとび越しができる	1. ふみ切り板の上で脚を開かないで踏み切ることができる 2. 手をできるだけ遠くにつくことができる 3. 足、おしりがとび箱にさわらないでとぶことができる
C 開脚で腕立てとび越しができる	1. スピードを増しながら、踏み切ることができる 2. 腕でとび箱をつきはなすことができる 3. やわらかに着地することができる 4. 踏み切り、手着き、安定した空中姿勢、着地がリズムミカルにできる

イ、単元指導計画